

海外臨床薬学研修 報告書

研修期間：令和7年6月4日～6月14日

所 属：名城大学薬学部薬学科

学 年：6年

学籍番号：200973475

氏 名：両金奈美恵

1. 参加目的

以前テレビでアメリカの薬剤師の職域の広さを知り、実際に現地の薬剤師はどのように活躍しているかを知りたいと思ったから。

2. 研修内容

【研修テーマ】アメリカにおける薬学教育、薬剤師の職能について。医療施設の見学。サンフォード大学での研究活動について。

【研修日程】

月日	研修内容
6月5日	Campus Tour Lecture: Pharmacy Education in the United States, Postgraduate Education and Board Certifications, United States Healthcare Model
6月6日	Lecture: Overview of Community Pharmacy Site Visit: Community Pharmacy (Rock Creek Pharmacy, Homewood Pharmacy)
6月7日	Activities: Pepper Place, Vulcan, Rickwood Field, Baseball Game
6月8日	Activities: Shades Mountain Baptist Church, Target, Buc-ees, Bass Pro Shops
6月9日	Lecture: Overview of Hospital Pharmacy Practice Site Visit: Hospital (Baptist Health Shelby Hospital) Tour of the Simulation Floor & High-Fidelity Simulation Experience Sterile Compounding Exercise
6月10日	Lecture: Overview of Ambulatory Care Practice, Overview of Ambulatory Care: The VA Perspective, Geriatrics Ambulatory Care
6月11日	Site Visit: Encompass Health, Solutions Infusion, Grandview Medical Center
6月12日	Pharmaceutical Sciences Research Institute with tour Present research Experiment with Sanford Faculty

【研修内容の詳細】

6 日間にわたり、薬学教育、卒業後の進路、アメリカの保険制度、調剤薬局・病院・外来診療における薬剤師の役割などに関する講義を受けた。また、調剤薬局や病院の見学、シムマンを用いたシミュレーション体験、さらにはサンフォード大学で行われている研究活動の聴講も行った。

アメリカで薬剤師になるには、高校卒業後に Pre-Pharmacy program で 2 年間、基礎科目を学び、その後 Pharmacy program で 4 年間、薬学に関する講義や実務実習を受ける必要がある。サンフォード大学では、これら両方のプログラムを提供している。卒業後、NAPLEX および MPJE という 2 つの試験に合格することで薬剤師の資格が得られる。薬剤師の進路としては、薬局や病院への就職のほか、レジデンシーや大学院進学がある。近年では、レジデント経験がないと病院への就職が難しくなっており、病棟業務への関与には 1 年間、専門資格の取得には 2 年間のレジデンシー修了が求められるケースが多い。

アメリカの医療制度は国民皆保険制度が存在せず、政府による公的医療保険としては主に Medicare と Medicaid の 2 種類ある。これらを利用している人は全人口のおよそ 30%にとどまるが、日本では国民皆保険制度により、すべての国民が健康保険に加入することが義務付けられている。

調剤薬局や病院における薬剤師の役割は、日本と大きくは変わらないが、薬剤師を補助するテクニシヤンの職域が広く、ピッキングに加えて無菌調製も担当できる点が特徴的である。そのため、薬剤師はより臨床業務に集中できる環境が整っている。また、アメリカでは疾病予防や慢性疾患管理を目的とした外来診療 (Ambulatory Care) に薬剤師が関与できる仕組みがあり、患者とより密接な関係を築くことが可能である。特に退役軍人を対象とした診療では、CPP (Clinical Pharmacist Practitioner) という資格を持つ薬剤師が、定められたプロトコルの範囲内で処方を行うことも許されている。

サンフォード大学には、マネキンを用いた実践的なトレーニングや、在宅医療・外来診療を模したモデルルームが多数設置されたシミュレーションフロアが整備されており、臨床現場に出る前に実践的な訓練を受けられる体制が確立されていた。

3. 感想

現地では、薬剤師が処方提案や検査値のオーダーなどを行い、医師と積極的にコミュニケーションを取っている様子が印象的で、アメリカでは、薬剤師が患者さんや医療従事者から強く必要とされていることを実感しました。その分、責任も大きく、それに対応するために大学での教育体制が充実していたり、レジデント制度が重要視されていたりする背景があるのだと感じました。今後、日本でもリフィル処方箋の導入や在宅医療の普及が進む中で、薬局薬剤師にもより高度な臨床知識が求められるようになって考えられます。また、病院薬剤師においても、病棟での多職種連携の中で専門性を発揮するためには、継続的な自己研鑽が一層重要になると思います。サンフォード大学のキャンパス内には自習スペースが随所に整備されており、実際に勉強している薬学生の方々の姿を見かけました。話を聞いてみると、その学びに対する姿勢や意識の高さに感銘を受けました。今回の研修を通して得た気づきや学びを、今後の学業や実務に活かし、自分自身の学ぶ姿勢を改めながら、薬剤師として患者さんの薬物療法に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

最後になりますが、貴重な講義や施設見学に加え、研修期間中の生活面においても多大なご配慮をいただいたトーマス教授、引率いただいた吉見准教授をはじめ、今回のサンフォード大学海外臨床研修の実施にあたり尽力してくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。